

2022年度第2四半期
テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2022年11月10日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2022年11月10日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2022年度第2四半期決算に関して

質問	回答
第2四半期累計期間の粗利益率が12.0%と、通期予想(9.2%)より上振れした要因を教えてください。	総合エンジニアリング事業における円安による影響と、建設工事が終盤にある案件での採算改善などが要因である。
下期の粗利益率の見通しが計算上では8.2%となるが、上期の実績と比べ低下する要因を教えてください。特段、採算悪化の懸念がある案件があることが要因ではないと考えて良いか。	第2四半期のドル円為替レートの実績は1ドル144.81円であったが、通期予想においては、1ドル140円と円高で想定していること、総合エンジニアリング事業における採算改善は期待はしているものの未だ下期には織り込んでいないこと、さらに機能材製造事業においては、保守的に原燃材料高騰の影響を織り込んでいるためである。採算悪化の懸念がある案件によって利益率が低下すると想定しているものではない。

2. マーケット環境について

顧客の引き合いが多いなかで、顧客がプラント建設発注に至るまでに、現状どのようなボトルネックや制約条件があるか教えてください。	個人的な見解となるが、LNG分野を例にすると、資機材価格がウクライナ侵攻以前の水準に戻っておらず、顧客の投資金額が上昇している一方で、一部の顧客はLNGを早く生産して欲しいというニーズとの板挟みになっている
--	---

	<p>状況にあると考えている。また、主要な機器のサプライヤーに発注が集中し、一部の機器が長納期化していることも足枷となっているのではないかと考えている。但し、米国のように LNG 輸出を政府主導で推進している案件については、一気に FID まで進むと思われる。全体的には多少の足枷はありながらも着実に案件は進捗していくと感じている。</p>
<p>米国キャメロン LNG 増設計画やフリーポート LNG 増設案件は今年度後半から来年度にかけて実現する可能性は高いのか。</p>	<p>そのように考えている。</p>
<p>米国における LNG 計画の受注方針について教えて欲しい。</p>	<p>まず、世界各地で LNG 計画が進展しており、米国の LNG 案件だけに集中するわけではない。また当社グループのプロジェクト遂行リソースに限界があるため、選別受注が基本方針である。米国は建設労働者の確保が課題であり、建設労働者をしっかりと確保できる信頼できるパートナーが不可欠である。米国で同時期に複数案件を遂行するかどうかは、その時のリスクや現地の状況をしっかりと把握して慎重に判断していく。</p>
<p>様々な案件で引き合いが増加する中、当社グループの遂行キャパシティ拡大に対する方針を教えて欲しい。</p>	<p>インドのオペレーションセンターの新設に加えて、東南アジアのエンジニアリングセンターにおいても 100 人単位で増員を行っている。加えて、日本においても、スキルを持つエンジニアの契約社員を 100 人単位で増員していく。但し、あくまで品質を保つことができる範囲の中でキャパシティを拡大するというのが重要であると考えている。</p>
<p>資機材高騰によるコスト増加に苦しんでいる同業他社が多いと思うが、当社はこのコスト増加をどのようにマネジメントしているのか。下期の対応方針も併せて教えて欲しい。</p>	<p>今後受注していく案件については、現状の資機材価格高騰分を織り込んで入札し受注していく。今年度初めに受注した案件では、一度内示をいただいた状況であったが、顧客と粘り強く交渉を行い、価格上昇分を織り込んで受注することができた。遂行中のプロジェクトについては、顧客との契約条件に</p>

	よって異なるが、契約上で交渉の余地があれば価格上昇分を顧客とシェアできるように粘り強く交渉していく。なお、今期業績見通しにおいて、一部の価格高騰の影響を織り込み済みである。
欧州において、脱ロシア化による天然ガスの供給先の多様化が進む一方で、脱炭素化や ESG の観点から LNG 計画に対しファイナンスが付き難い傾向があると聞くが、こうした問題も今後解消されていく方向なのか。	解消するかどうかは現時点では判断しかねるが、トランジションエネルギーとして当面は LNG を利用していくことになり、LNG プラントに CCS を組み合わせるなど低・脱炭素化のニーズは高まっていくと認識している。ただし、当社グループも LNG がいつまでもエネルギーの中心にあるという前提には立っておらず、長期経営ビジョン「2040 年ビジョン」と中期経営計画「BSP2025」で掲げた方針の通り、水素や燃料アンモニアなどの今後の成長分野の拡大にも取り組んでいる。
LNG 案件の動向をアップデートして欲しい。	米国のキャメロン LNG 増設計画とフリーポート LNG 増設計画に入札中、マレーシアでもフローティング LNG 計画に入札している。さらに、オセアニアで進む LNG 計画の基本設計 (FEED) の引き合いをいただいている。

3. 個別事業について

中期経営計画で掲げた成長分野の EPC 事業における収益性の底上げが重要なテーマと思うが、ここ半年～1 年の進捗状況を教えて欲しい。	水素や燃料アンモニア分野では、複数の案件で今期後半から来年度にかけて FS やプレ FEED が実施されていく見通しであるほか、海外で SAF 案件も実現に向けて動きが出ている。スピードが極端に上がっているわけではないが、既存分野が活況であるなかでも、これら成長分野の人員を充実させており、我々が目指す方向へ着実に進捗している。
--	--

以上